

劇場アニメに描かれる若者の人間関係に関する研究 —作品における悩みの会話の分析を中心に—

恩田 竜河

本研究では、日本のアニメ作品に描かれた若者の人間関係を調査分析し、その特徴を明らかにすることを目的としている。

日本では、若者のひきこもりなど自立を巡り問題が深刻化し、児童虐待、いじめ、少年による重大事件、有害情報の氾濫など、子どもや若者をめぐる多くの問題が認識されている。2009（平成 21）年には子ども・若者育成支援推進法が成立し、翌年 4 月に施行された。2010 年には子ども・若者育成支援施策の推進を図るための大綱として「子ども・若者ビジョン」（子ども・若者育成支援推進本部）が作成され、2016 年、2021 年に改訂されて「子供・若者育成支援推進大綱」に引き継がれている。平成 29 年版の『子供・若者白書』には、2016 年に内閣府が実施した「子供・若者の意識に関する調査」の調査結果を踏まえ、「若者にとっての人とのつながり」という特集が組まれているが、そこには「若者の居場所」や「他者とのつながり」、若者の孤立が問題として取り上げられている

一方、日本においてはアニメ産業が盛んであり、『アニメ産業レポート』（一般社団法人日本動画協会 2021 年版）によれば日本のアニメ産業市場は過去 10 年で大きく拡大しており、アニメ視聴人口は増加傾向にある。『アニメマーケティング白書』（カドカワ 2017 年版）によれば、日本における 5-69 歳の人口のうちその 32% の 3124 万人がアニメ作品を視聴しているとされており、なかでも子どもや若者がアニメを視聴している傾向が示されている。さらに、こうしたアニメなどのメディア視聴による影響は研究が蓄積されており、アニメ視聴がオーディエンスへポジティブな影響を与えることも明らかになっている。

これらのことを背景として、本研究では、日本のアニメ作品に描かれた若者の人間関係を調査分析することで、アニメの視聴がどのような影響を持ち得るのかを考察することを目的とした。研究方法としては、劇場公開されたアニメの中から、一定の基準を設けて調査分析の対象とするアニメ作品を 7 つ選定し、作品中の主要な登場人物の会話をテキスト化した上で、次の 2 つの調査を行った。①どのような人間関係（親子、同年代など）の間で量的にどれだけの会話がなされているかの調査、②なかでも悩みを打ち明ける会話について注目し、その打ち明ける悩みの種類を相談相手の属性とともに分析する調査（悩みの種類を分類する際には「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」（内閣府 2019 年）を参考にして項目を定めた）。前者の調査では、登場人物の会話における話し手と聞き手の関係を、統計ソフト R を用いてネットワーク図を作成することで視覚化して示した。これらの調査の結果を、現実の若者が選択する相談相手との比較を通じて、劇場アニメ作品において描かれる人間関係の特徴を明らかにすることを試みた。

（指導教員 原 淳之）